

コロナ禍における法文学部の 被災記録の収集と保存 I

— 学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果 —

Collection and Preservation of Records of the Disaster Experiences of Students, Faculty, and Staff in the Faculty of Law and Letters, Ehime University, during the Coronavirus Pandemic (I): Summary Statistics of a Questionnaire Survey of Students

青木 理奈・鈴木 静・福井 秀樹
小佐井良太・石坂 晋哉

1. はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大は、大学生にどのような影響をもたらしているのだろうか。新型コロナウイルス感染蔓延は、多くの人にとって予期しえなかった深刻かつ長期にわたる未曾有の災厄である。愛媛大学も、急速に進む感染拡大に対し、学生の入構禁止、遠隔授業への全面切り替え等が急きょ行われ、教育提供体制が激変した。

今回の新型コロナウイルスのような全世界規模で起きている災厄は、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことが次なる災厄への備えになるだろう。なにより、今のコロナ禍において刻一刻と事態が変わっていく中、時系列で保存できるよう、記録はコロナ禍の初期から収集することが重要であると考えている。

よって、未曾有の事態に際し、法文学部学生の生活上の被害実態を明らかにするとともに、法文学部の緊急時対応および遠隔授業等実施に係る記録を収集し、データベース化することを最終目的とし、本調査では、愛媛大学法文学部の学生を対象としたアンケートを実施する。コロナ禍における大学生の実態を明らかにし、学修状況や生活状況を把握することを目的とする。

2. 新型コロナウイルス感染拡大期における愛媛大学法文学部での遠隔授業の実施

(1) 愛媛県における新型コロナウイルス感染状況と愛媛大学の対応

2020年4月7日に新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づき、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、大阪府、兵庫県、福岡県に「緊急事態宣言」が発令された。その後全国に拡大され、愛媛県も4月16日に「緊急事態宣言」の対象地域に含まれることになった。そして5月14日に「緊急事態宣言」が解除された。愛媛大学のBCPステージは、「緊急事態宣言」に連動する形で、4月17日には「レッド」に引き上げられ、5月11日に「オレンジ」に引き下げられた。その後、6月1日に「イエロー」へ引き下げて以降は、しばらく「イエロー」ステージが維持されてきた。11月9日にいったん「ライトイエロー」にまで引き下げられたが、その後の愛媛県内での感染者数増加の状況を踏まえ、メインキャンパスを中心に再度「イエロー」に引き上げられ、現在（12月時点）も「イエロー」ステージを継続している¹⁾。

愛媛大学では、令和2（2020）年4月8日～4月21日の2週間が休講となり、前学期の第1クォーター期間（4月22日～6月10日）は「遠隔授業を実施」、第2クォーター期間（6月11日～9月23日）は「原則として遠隔授業を実施」、後学期の第3クォーター期間（9月24日～12月3日）は「遠隔授業を積極的に実施するとともに、対面授業も可能な限り開講」した。そして、第4クォーター期間（12月4日～3月31日）は「対面授業を可能な限り開講するとともに、遠隔授業を実施」する予定である（2020年12月14日現在）。

(2) 愛媛大学法文学部の学生数

2020年12月現在の愛媛大学法文学部の学部生数、大学院生数は、以下のとおりである。学部生合計は1,654人、大学院生数は43人である。学部生の内訳は、昼間主法学・政策学履修コースが317人、昼間主人文科学履修コースが351人、夜間主法学・政策学履修コースが157人、夜間主人文科学履修コースが170人、グローバルスタディーズ履修コースが235人（昼間主のみ）であり、改組前の旧総合政策学科の昼間主が22人、夜間主が14人、昼間主人文科学学科が8人、夜間主人文科学学科が6人である。大学院生の内訳は、人文社会科学研究院生が17人、改組前の法文学研究院生が26人である。学部生と院生のうち、留学生は26人である。

1) 愛媛大学関係者のコロナウイルス感染は、2020年8月1日に1人（学生）、12月26日に1人（学生）が公表された。なお、当該学生は、公表前2週間は少なくとも登学しておらず、学内で感染したものではない。

(3) 愛媛大学法文学部における授業実施状況

愛媛大学法文学部は、前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間に遠隔授業を実施し、対面授業は行わなかった。遠隔授業は、その提供方法の違いから A と B とに分けられ、遠隔授業 A は動画等のネット配信による。遠隔授業 A もさらに、①同期型（リアルタイム型）と②非同期型（蓄積型）に分かれる。①同期型（リアルタイム型）は、Zoom、Webex などのネット会議システムを活用して、遠隔地の学習者に対してリアルタイムで授業を行う形態である。②非同期型（蓄積型）は、Moodle などの e-learning システムを活用して、教員があらかじめ Web サーバ等に蓄積した教材に対して、学習者がアクセスして学習する形態である。遠隔授業 B は、修学支援システム等のメールにより課題を与え、指導する授業形態である。

上記に基づく遠隔授業数の内訳は、表1のとおりである。なお、授業形態は、以下の3種を組み合わせることもあるので、合計数とは一致しない。遠隔授業 B が多い理由は、4月当初の遠隔授業開始に伴い、大学の通信システムへの負荷が過重になることが懸念され、遠隔授業 B が推奨されたためである。

表 1. 遠隔授業数の内訳²⁾

| | 合計 | 遠隔授業 A ① | 遠隔授業 A ② | 遠隔授業 B |
|-------|-----|----------|----------|--------|
| (昼間主) | | | | |
| 1 Q | 180 | 48 | 49 | 115 |
| 2 Q | 192 | 49 | 44 | 116 |
| 前期 | 230 | 37 | 90 | 109 |
| (夜間主) | | | | |
| 1 Q | 41 | 9 | 11 | 26 |
| 2 Q | 41 | 8 | 9 | 26 |
| 前期 | 67 | 6 | 17 | 31 |

(愛媛大学教育支援課法文学部チームによるまとめから筆者作成)

3. 対象と方法

本アンケート調査の対象者は、法文学部の学生（学部生・大学院生）であり、調査期間は、2020年10月22日～11月11日である。

調査方法は、インターネットでの無記名自記式アンケートを採用した。授業を担当

2) 愛媛大学法文学部では、セメスター制とクォーター制を併用している。

する教員から学生へ周知し実施した。集まった回答は、185人であり、以下の2つについては、重複とみなし削除した。1. 自由記述含め、回答が全て同じもの。2. 自由記述は未記入だが、他の回答が全て同じであり、かつ、回答送信時間が近いもの（5分以内）。以上より、14件が削除対象となり、有効回答は171人であった。

アンケート内容は、(1) 回答者の属性について5項目、(2) 遠隔授業における学修面が10項目、(3) コロナ禍の緊急事態宣言のもとでの生活面が6項目、合計21項目から構成されている。アンケートの回答は必須とする選択方式の項目と、必須ではない自由記述の項目を作成した。アンケートを資料1に示す。

4. 倫理的配慮

本調査において、対象者に対する倫理的配慮を以下のようにした。

- (1) 不必要な負荷や負担への配慮：回答は任意でありかつ匿名である。対象者に不必要な負荷や負担は生じない。
- (2) 個人のプライバシー保護への配慮：匿名で回答する。アンケート結果についても守秘義務を厳守し、個人のプライバシーを厳重に保護する。
- (3) 協力拒否への不利益への配慮：回答は任意であり、回答後に対象者が回答内容について削除を求めた場合には、即座に応じる。協力拒否への不利益は生じない。
- (4) 調査協力への理解や同意：担当教員からの説明およびアンケート冒頭に調査協力への理解を求める。

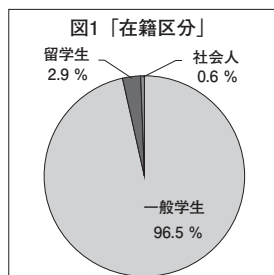
その他、アンケート作成において、個人情報が含まれないようにした。参加者には調査の趣旨が十分伝わるように冒頭に説明を書いた上で、参加は任意であることを説明し、アンケートに回答し送信された時点で同意とした。

5. 結果

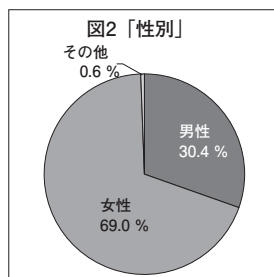
本調査は、(1) 回答者の属性、(2) コロナ禍の学修面について、(3) コロナ禍の生活面について、学生の状況を把握した。

(1) 回答者の属性

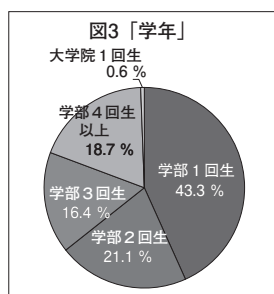
- 1) 回答者171人の在籍区分（身分）は、「一般学生」165人（96.5%）、「社会人」1人（0.6%）、「留学生」5人（2.9%）である（図1）。



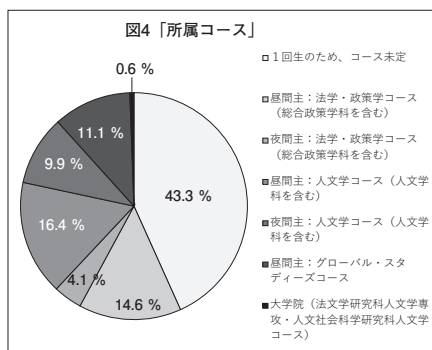
2) 性別は、「男性」52人 (30.4%)、「女性」118人 (69.0%)、「その他」1人 (0.6%) である (図2)。



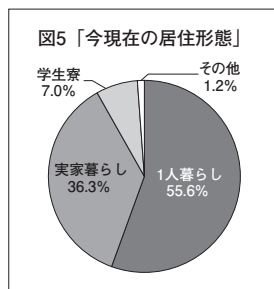
3) 学年は、「学部1回生」74人 (43.3%)、「学部2回生」36人 (21.1%)、「学部3回生」28人 (16.4%)、「学部4回生以上」32人 (18.7%)、「大学院1回生」1人 (0.6%)、「大学院2回生以上」0人である (図3)。



4) 所属コースは、「1回生のため、コース未定」74人 (43.3%)、「昼間主：法学・政策学コース (総合政策学科を含む)」25人 (14.6%)、「夜間主：法学・政策学コース (総合政策学科を含む)」7人 (4.1%)、「昼間主：人文学コース (人文学科を含む)」28人 (16.4%)、「夜間主：人文学コース (人文学科を含む)」17人 (9.9%)、「昼間主：グローバル・スタディーズコース」19人 (11.1%)、「大学院 (法文学研究科人文学専攻・人文社会科学研究科人文学コース)」1人 (0.6%) である (図4)。



5) 後学期が始まった今現在の居住形態は、「1人暮らし」95人 (55.6%)、「実家暮らし」62人 (36.3%)、「学生寮」12人 (7.0%)、「その他」2人 (1.2%) である (図5)。

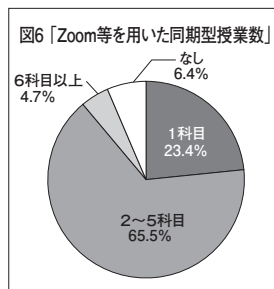


(2) コロナ禍の学修面について

前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の遠隔授業について単純集計の結果を示す。

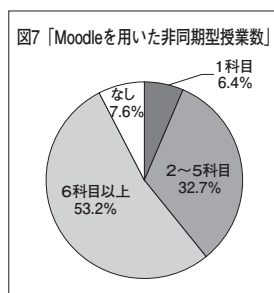
1) Zoom 等を用いた同期型授業数

「Zoom 等の同期型授業は何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」40人（23.4%）、「2～5科目」112人（65.5%）、「6科目以上」8人（4.7%）、「なし」11人（6.4%）である（図6）。



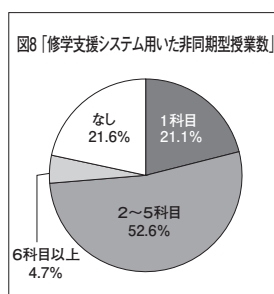
2) Moodle を用いた非同期型授業数

「Moodle を利用した非同期型授業は、何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」11人（6.4%）、「2～5科目」56人（32.7%）、「6科目以上」91人（53.2%）、「なし」13人（7.6%）である（図7）。



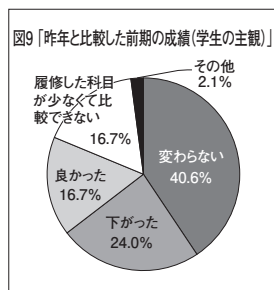
3) 修学支援システムを用いた非同期型授業数

「修学支援システムやメールを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか」の質問に対し、「1科目」36人（21.1%）、「2～5科目」90人（52.6%）、「6科目以上」8人（4.7%）、「なし」37人（21.6%）である（図8）。



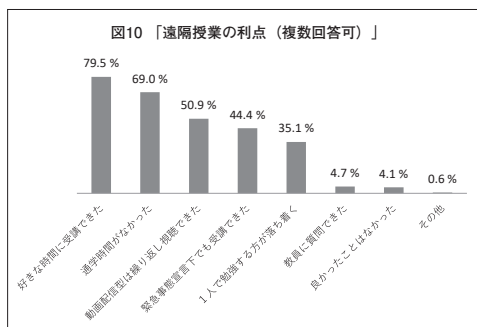
4) 前期の成績に対する学生の主観

「昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか」の質問に対し、「1回生なので昨年と比べられない」75人（43.8%）を除く96人の回答は、「昨年と比べて成績は良かった」16人（16.7%）、「昨年と比べて成績は変わらない」39人（40.6%）、「昨年と比べて成績は下がった」23人（24.0%）、「昨年と比べて履修した科目が少なくなくて比較できない」16人（16.7%）、「その他」2人（2.1%）である（図9）。



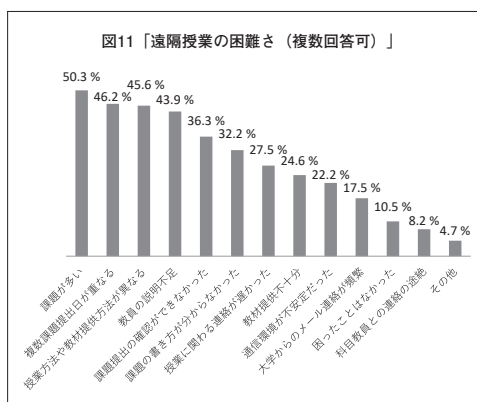
5) 遠隔授業の利点

「遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「自分の好きな時間に受講できたこと」136人（79.5%）、「通学時間がなかったこと」118人（69.0%）、「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」87人（50.9%）、「緊急事態宣言下でも受講できたこと」76人（44.4%）、「1人で勉強する方が落ち着くこと」60人（35.1%）、「教員に質問できたこと」8人（4.7%）、「良かったことはなかった」7人（4.1%）「その他」1人（0.6%）である（図10）。



6) 遠隔授業の困難さ

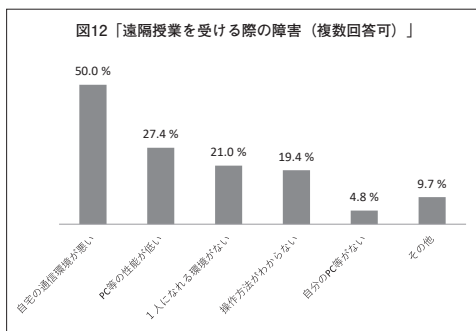
「遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「課題やレポート提出の回数が多いこと」86人（50.3%）、「複数の科目の課題やレポート提出日が重なること」79人（46.2%）、「授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと」78人（45.6%）、「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」75人（43.9%）、「出席している課題が提出されているか確認ができなかったこと」62人（36.3%）、「課題やレポートの書き方が分からなかったこと」55人（32.2%）、「大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと」47人（27.5%）、「教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと」42人（24.6%）、「通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと」38人（22.2%）、「大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと」30人（17.5%）、「困ったことはなかった」18人（10.5%）、「科目教員との連絡がつかないこと」7人（4.7%）である（図11）。



かったこと、つきにくかったこと」14人（8.2%）、「その他」8人（4.7%）である（図11）。

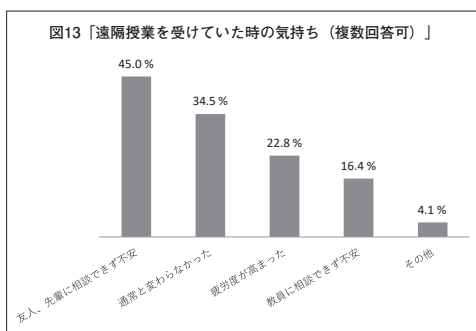
7) 遠隔授業を受ける際の障害

「遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）」の質問に対し、「障害になることはなかった」109人（63.7%）を除く62人の回答は、「自宅の通信環境が整っていないかった（通信速度が遅い等も含む）」31人（50.0%）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった」17人（27.4%）、「自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった」13人（21.0%）、「Moodleなどの操作方法がわからなかった」12人（19.4%）、「自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった」3人（4.8%）、「その他」6人（9.7%）である（図12）。



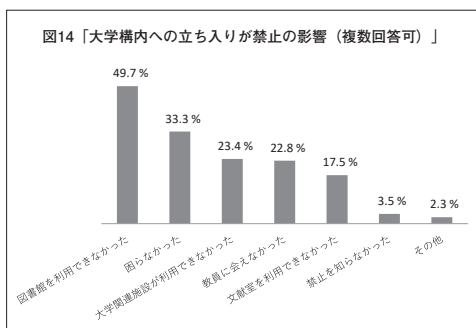
8) 遠隔授業を受けていた時の気持ち

「遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）」の質問に対し、「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」77人（45.0%）、「通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた」59人（34.5%）、「昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった」39人（22.8%）、「困ったことを教員に相談できず、不安になった」28人（16.4%）、「その他」7人（4.1%）である（図13）。



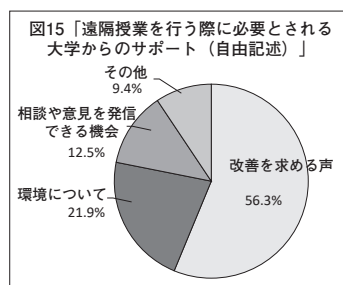
9) 大学構内立ち入り禁止の影響

「大学構内への立ち入りが禁止されていましたが、どのようなことに困りましたか（複数回答可）」の質問に対し、「図書館を利用できなかったこと」85人（49.7%）、「困らなかった」57人（33.3%）、「図書館や文献室以外の大学関連施設が利用できなかったこと」40人（23.4%）、「担当教員に会うことが出来なかったこと」39人（22.8%）、「法文学部の文献室を利用できなかったこと」30人（17.5%）、「禁止されていることは知らなかった」6人（3.5%）、「その他」4人（2.3%）である（図14）。



10) 遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述）

「遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか」の自由記述項目に対し、回答者は32人（18.7%）である。得られた回答（複数回答可）を分類した結果、サポートを求める具体的な回答が「環境についてのサポート」7人（21.9%）「相談や意見を発信できる機会」4人（12.5%）である。



他には「システム機能改善、授業方法や指導内容について改善を求める声」18人（56.3%）「その他」3人（9.4%）である（図15）。具体的な回答を、資料2に示す。

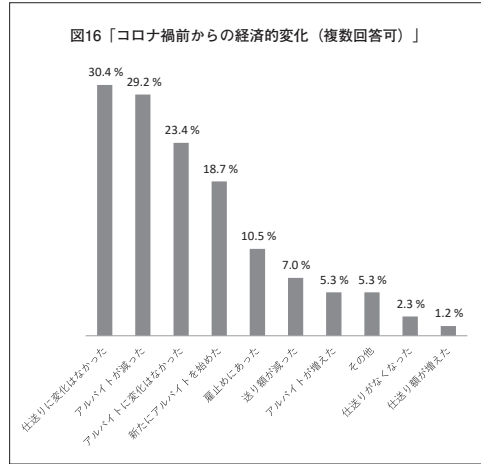
(3) コロナ禍の生活面について

コロナ禍の生活面について単純集計の結果を示す。

1) コロナ禍前からの経済的变化

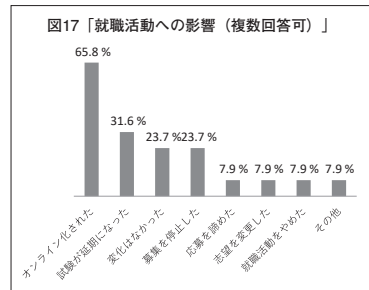
「前期（1Q/2Q）の遠隔授業期間において、どのような経済的な変化がありましたか（複数回答可）」の質問に対し、「保護者からの仕送りに変化はなかった」52人（30.4%）、「アルバイトに入る回数や時間が減った」50人（29.2%）、「アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった」40人（23.4%）、「新たにアルバイトを始めた」32人（18.7%）、「アルバイト先が休業したり雇止めにあった」18人

(10.5%)、「保護者からの仕送り額が減った」12人(7.0%)、「アルバイトに入る回数や時間が増えた」9人(5.3%)、「その他」9人(5.3%)、「保護者からの仕送りがなくなった」4人(2.3%)、「保護者からの仕送り額が増えた」2人(1.2%)である(図16)。



2) 就職活動への影響

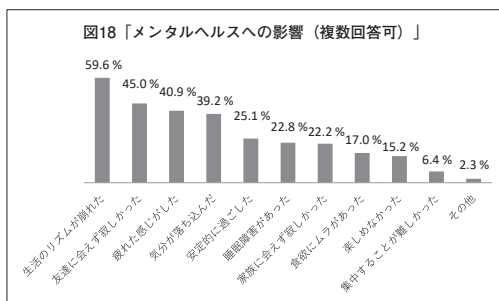
「就職活動にどのような影響がありましたか(複数回答可)」の質問に対し、「4回生以上ではない、または就職活動はしていない」133人(77.7%)を除く、38人の回答は、「Web面接など、オンライン化された」25人(65.8%)、「公務員試験や就職試験が延期になった」12人(31.6%)、「就職活動に変化はなかった」9人(23.7%)、「希望していた企業や自治体が募集を停止した」9人(23.7%)、「希望していた企業や自治体の応募を諦めた」3人(7.9%)、「志望業界を見直した(変更した)」3人(7.9%)、「就職活動をやめた」3人(7.9%)、「その他」3人(7.9%)である(図17)。



3) メンタルヘルスへの影響

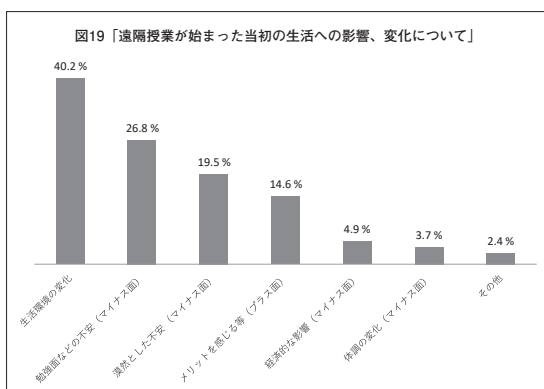
「遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか(複数回答可)」の質問に対し、「生活のリズムが崩れた」102人(59.6%)、「友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった」77人(45.0%)、「疲れた感じがした、または気力がなかった」70人(40.9%)、「気分が落ち込んだ」67人(39.2%)、「通常と変わらず、安定的に過ごした」43人(25.1%)、「寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた」39人(22.8%)、「家族に会え

ず寂しかった」38人(22.2%)、「食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた」29人(17.0%)、「物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった」26人(15.2%)、「新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった」11人(6.4%)、「その他」4人(2.3%)である(図18)。



4) 遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について(自由記述)

「遠隔授業が始まった当初、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は82人(48.0%)である。得られた回答(複数回答可)を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」33人



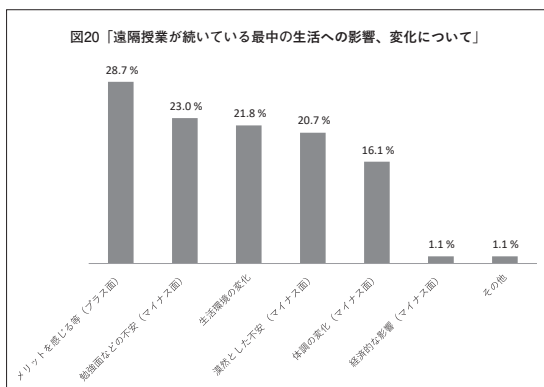
(40.2%)、「勉強面など精神面への影響(マイナス面)の記述」22人(26.8%)、「コロナ禍に対する漠然とした不安(マイナス面)の記述」16人(19.5%)、「心身環境等に余裕(メリット)を感じる等(プラス面)の記述」12人(14.6%)「経済的な影響(マイナス面)の記述」4人(4.9%)、「体調の変化(マイナス面)の記述」3人(3.7%)、「その他」2人(2.4%)である(図19)。具体的な回答を、資料3に示す。

5) 遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について(自由記述)

「その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は87人(50.9%)である。得られた回答(複数回答可)を分類した結果、「心身環境等に余裕(メ

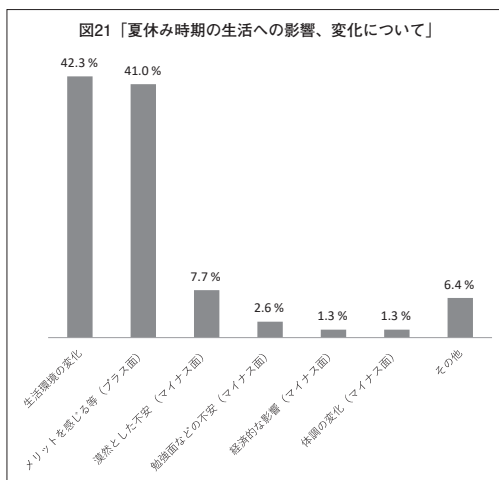
リット)を感じる等(プラス面)の記述」25人(28.7%)、「勉強面など精神面への影響(マイナス面)の記述」20人(23.0%)、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」19人(21.8%)、「コロナ禍に対する漠然とした不安(マイナス面)の記述」

18人(20.7%)、「体調の変化(マイナス面)の記述」14人(16.1%)、「経済的な影響(マイナス面)の記述」1人(1.1%)「その他」1人(1.1%)である(図20)。具体的な回答を、資料4に示す。



6) 夏休み時期の生活への影響、変化について(自由記述)

「夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか」の自由記述項目に対し、回答者は78人(45.6%)である。得られた回答(複数回答可)を分類した結果、「生活リズムが崩れる、実家に帰る等生活環境の変化の記述」33人(42.3%)、「心身環境等に余裕(メリット)を感じる等(プラス面)の記述」32人(41.0%)「コロナ禍に対する漠然とした不安(マイナス面)の記述」6人(7.7%)、「勉強面など精神面への影響(マイナス面)の記述」2人(2.6%)、「経済的な影響(マイナス面)の記述」1人(1.3%)、「体調の変化(マイナス面)の記述」1人(1.3%)「その他」5人(6.4%)である(図21)。具体的な回答を、資料5に示す。



6. 考 察

本調査結果は、いまだコロナ禍収束の目途が立たない「With コロナ」の状況において、大学が今後どのような取り組みを進めてゆく必要があるのか、数多くの示唆を与えるものとなっている。そして、今回の新型コロナウイルスのような全世界規模で起きている災厄の記録や教訓を収集、保存し、継承していくためにも、コロナ禍における大学生の学修状況や生活状況を把握し、実態を明らかにすることは、非常に重要である。

本調査から読み取れる傾向として、愛媛大学法文学部における学部生並びに大学院生のコロナ禍への対応は、大学への通学が禁止・制限された生活のなかで、当初、未曾有の事態に不安を抱えながら過ごしたものの、遠隔授業の継続に伴い、夏季休業期間まで学修や生活パターンを自ら工夫しておおむね乗り切ったことがわかる。これは調査結果の多数から読み取れることであるが、回答者のなかでも格差が大きいことも特徴である。遠隔授業の継続に伴い、自宅での学修や生活ともに順応してきた学生がいる一方、前学期期間を通じて自宅での学修や生活、メンタルヘルスに困難を感じ続けていた学生もいる。この点の詳細については、別稿に譲る。

本稿では、(1) コロナ禍の学修面および (2) コロナ禍の生活面についての単純集計から、全体の傾向を考察していく。

(1) コロナ禍の学修面について

授業方法については、6科目以上あった形式としては、「Moodle を利用した非同期型授業」が一番多く、「Zoom 等の同期型授業や、学修支援システムやメールを利用した非同期型授業」は、2～5科目あったと回答した学生が多かった。

また、成績に関しては、「昨年と変わらない」学生が半数近くだったが、変化があった学生の中では「成績が良くなった」学生より「悪くなった」学生の方が多い結果となっていた。学年別にみえていくと、1回生は「1回生なので昨年と比べられない」が100%、2回生は「昨年と比べて成績は変わらない」が55%で一番多かったが、3回生になると「昨年と比べて成績は下がった」が43%で一番多く、4回生は「昨年と比べて履修した科目が少なくて比較できない」が43%で一番多い結果になった。これは遠隔授業になったからという原因よりは、通常時の成績でも考えられることかもしれない。

遠隔授業で困ったこととしては、半数の学生が「課題やレポート提出の回数が多いこと」を挙げており、半数近くの学生が「複数の科目の課題やレポート提出日が重なったこと」が困ったようだ。課題としてレポートが多いうえ、その締め切りに追われた様子がうかがえる。また、「授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）

や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと」や、「教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと」も半数近くが当てはまると回答しており、慣れない遠隔授業で、提供する教員からの説明不足に戸惑う様子うかがえる。

反対に、遠隔授業で良かったこととしては、「自分の好きな時間に受講できたこと」が8割近い学生がメリットと感じており、次いで、半数以上の学生が「通学時間がなかったこと」や「動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと」などを挙げており、自由に学修の時間を決めることができるため、無くなった通学時間も利用し、学修したい科目は何度も繰り返し学修していこうとした意欲がうかがえる。

また、遠隔授業を受ける際には、パソコンや通信機器など最低限の機材が必要となってくるが、「障害になることはなかった」と回答した学生が6割以上いた。障害になった学生の中では、「自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）」と回答した学生が半数と一番多かった。

遠隔授業を受けていた時の気持ちについては、「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」学生が半数近く該当し、通常授業の時でも履修を決める際には友達同士相談しながら決めている様子もうかがえるため、慣れない遠隔授業での受講方法などを気軽にすぐ聞ける学生が近くにいなかったという不安は大きかったようだ。特に学年別に見ていくと顕著で、1回生では「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」との回答が一番高く7割近くの1回生が該当していた。次いで高かった回答は、「困ったことを教員に相談できず、不安になった」であった。2回生以上になると、「通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた」が一番高く、次いで「昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった」と回答している。1回生は通常時の大学生活が分からない中で遠隔授業となり、不安が大きかったことが分かる。

また、選択肢の「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」を、アンケート回答当時（後学期）の居住形態別に見ていくと、学生寮の66%が一番高く、次いで実家暮らしが50%、最後に一人暮らしが40%という結果だった。一人暮らしより学生寮や実家で暮らしている学生の方が「困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった」という傾向がみられた。しかし、これらは質問項目ではアンケート回答当時（後学期）での居住形態しか聞いておらず、前期の遠隔授業時での居住形態も聞くと違う結果がでた可能性もあるだろう。

また大学構内への立ち入りが禁止されていることによって困ったこととしては、半数近くの学生が「図書館を利用できなかったこと」と回答している。例年以上に多くなったレポートや、大学に入学して初めてのレポートで、大学図書館が使用できない

ために制限された文献の中でしか課題に取り組むことができなかったのだろう。次いで多かった回答は「困らなかった」だった。愛媛大学では、遠隔で利用できるデータベースも多くあり、そういったものをうまく利用できた学生もいたのかもしれない。また、愛媛大学では、教職員に対し、前学期授業開講に係る方針として、『授業方法等の弾力的な対応』を求める通知（令和2年3月31日付）をしていた。よって、遠隔授業時点では図書館の利用を前提としない課題が課されていた可能性も高い。

遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートを自由記述で述べてもらった。回答者は2割弱で、回答の内訳としては「資金援助」や「教室開放」など具体的なサポートを求める声より、「出席や課題提出をしたことが確実にわかる機能」「Moodleのようなサイトにすべての講義の講義方法を統一してほしい」「画面を見続けることを防ぐような取り組み、そのような授業の仕方」を求めるなど、授業改善を求める声が多く書かれていた。

(2) コロナ禍の生活面について

経済的な変化に関する質問では、「保護者からの仕送りに変化はなかった」が一番多く、次いで「アルバイトに入る回数や時間が減った」学生が多かった。また、就職活動での影響は、「Web面接など、オンライン化された」とする回答が7割近く、また就職試験が延期になった自治体等や企業もあったようで、就職試験の計画が崩れたり例年とは違った就職活動に手探りで活動していたりといった様子がうかがえる。

また、メンタルヘルスに対する変化では、「生活リズムが崩れた」学生が6割にのぼり、4割が「友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった」、「疲れた感じがした、または気力がなかった」、「気分が落ち込んだ」という回答だった。また、これらメンタルヘルスに対する質問項目のうち「通常と変わらず、安定的に過ごした」を選択したものを除く9項目にいくつ該当したかを今現在（後学期）の居住形態別に分析すると、実家暮らしでは0個～2個該当した学生が60%だったのに対し、一人暮らしでは3個～9個該当した学生が54%という結果になっている。やはり一人暮らしの学生のほうがストレスを感じていることがうかがわれる。なお、今回の調査では、今現在（後学期）での居住形態しか聞いておらず、前期の遠隔授業時での居住形態とストレスとの関係は明確ではないが、今現在一人暮らしの学生は家族が遠方、地元の友人も遠方ということで、ストレスが多かったのではないだろうか。

コロナ禍において、生活への影響を問う自由記述「遠隔授業が始まった当初」と、「遠隔授業が続いている最中」、さらに「夏休みの時期」について質問した回答では、遠隔授業が始まった当初は、実家に帰る等の生活環境の変化や夜昼逆転生活になるなど生活リズムが崩れる学生が4割にのぼった。次いで、初めての遠隔授業に対して

勉強面など不安を感じたり、コロナ禍に対する漠然とした不安を感じたりしているといった回答が目立った。

しかし、遠隔授業が続く中での生活への影響を問う回答では、心身や環境に余裕を感じるなど今の状態をプラスに捉えている学生の割合が一番多いという結果になった。遠隔授業にも慣れ友達関係も Zoom を使って交流するなど工夫している様子がうかがえる。しかし、それでも、勉強や精神面への影響、生活リズムの崩れ、コロナ禍に対する漠然とした不安はあったようで、ここでは、PC 画面を見続けることでの疲労など体調の変化もみられる学生が出てきている。先行研究⁽¹⁾では、通常の講義と比較して遠隔講義の受講に対し疲労感を感じている学生が半数以上という結果も出ており、慣れないだけでなく、画面を見続けることや多岐にわたる授業方式によって、疲労度が増していることもあるだろう。

そして、夏休み期間には、生活リズムが崩れたり環境の変化があったりした学生が4割以上となっている。生活リズムをつかみかけていたが、授業がなくなり、また旅行など遊びに行くこともできずこれまでとは違った夏休みを過ごすことが多かったようだ。その一方で、心身や環境に余裕を感じるなど今の状態をプラスに捉えている学生の割合も4割を超えており、バイトを始めたり教習所に通ったり資格の勉強をしたりと新たな目標を作り、この時期にできることを探している様子をうかがうことができた。

本調査に寄せられた愛媛大学法文学部の学生の回答からは、学生たちが様々な不満を抱えつつもおおむね前向きに学業に取り組んでいる傾向がうかがわれた。今現在、全国では退学・休学を検討せざるを得ない大学生が急増していると言われており、病気や自死などで親を亡くした遺児の大学生においては、4人に1人が「退学検討」をしているという結果も出ている⁽²⁾。また、高等教育の無償化に取り組む学生団体の「高等教育無償化プロジェクト FREE」が行ったネット調査⁽³⁾では、一般学生の5人に1人が退学を検討しているという結果が出ている。このような中で、地域性も大きいとはいえ、愛媛大学法文学部ではコロナ禍をうまく乗り切っている、乗り切ろうとしている傾向がみられた。

ただ、本調査データはあくまでも限定的なサンプル（法文学部所属学生総数の約10%）の平均値からの見解であって、こういう問題は個人差が大きい問題になってくる。実際、自由記述のところでは、ある学生は、「明らかに受講の効率、モチベーションが向上した」、「通学、受講時間を自分で決められるようになったことで、学修効率が大幅に向上した」、「自宅から出る必要がなくなるとても心地よく過ごすことができた」と遠隔授業が始まった当初から夏休み期間まで落ち着いて過ごしている記述がある一方で、「初めての授業や課題を相談する人がおらず、不安だった。」、「オンライン

での交流が苦手だったため人との関わりがあまり無かった。」「バイトを始めたが、失敗することも多く、死にたいと思うことが増えた。」と、継続的に辛い状況を記述している学生も存在している。

そして、コロナ禍になった当初は動揺しており心身ともにつらかったが、授業や生活に慣れるにつれ、自分のやり方が定着し、その中で楽しさを見つけだせている学生もいる。また、そういった軌道に乗れたかのようにみえる学生の中でも、長期休みになると、旅行に行けないことや友達と自由に会うことができないことに対し、辛くなっているといった形で気持ちの変化に波も見られ、自由記述では、さまざまな形でコロナ禍の生活が見えてきた。これらは、データとして平均値にしてみると見えてこない事柄だろう。

今回の調査では、同時にコロナ禍の学修・生活に関する学生の手記も募集しており、数件集まっている。今後は、自由記述や手記を分析しつつ、生の声を聞くことにより解析する予定である。

7. おわりに

今なおコロナ禍には収束が見えず将来が見えてこない中、教育という現場は学びを止めないために、方針の見直しが続いている。「第3波」の到来も避けられないと言われている現在の日本で、With コロナの大学教育はどのようになるのだろうか。この災厄から得られた教訓を無駄にしないように、今後も手記の募集や座談会を開催し、学生・教員双方の生の声を収集・保存していきたい。

謝辞

今回、アンケート調査に携わって頂きました法文学部の教員、ならびに回答頂きました学生の方々に感謝の意を表します。

また、この研究は、令和2年度法文学部戦略経費の助成金交付により研究が遂行されたものです。

参考文献

- (1) 内藤徹. (2020). 同志社大学商学部生の遠隔授業環境に関するアンケート調査結果報告書. 同志社商学, 72 (2), 277-288.
- (2) 國崎万智. “遺児の大学生、4人に1人が「退学検討」。コロナで進学あきらめる高校生も（調査結果）.” https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5fc4426ec5b66bb88c680870 (2020年12月10日閲覧).
- (3) 高等教育無償化プロジェクト FREE. “新型コロナ感染拡大の学生生活への影響調査（集計結果）.” <https://s3-us-west-2.amazonaws.com/jnpc-prd-public-oregon/files/2020/05/f45c4c80-bc34-49ba-9d38-1e80a0e6e429.pdf> (2020年12月10日閲覧).
調査期間：2020年4月9日21時～4月27日20時
回答：319校1200名（国立大学60校412名、公立大学19校33名、私立大学202校716名、短期大学3校3名、専門学校32校32名、その他高等教育機関3校4名）

付録内容

資料1. コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート

資料2. 遠隔授業を行う際に必要とされる大学からのサポート（自由記述の全回答）

資料3. 遠隔授業が始まった当初の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）

資料4. 遠隔授業が続いている最中の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）

資料5. 夏休み時期の生活への影響、変化について（自由記述の全回答）

資料1. コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート

このアンケートは、法文学部戦略経費「コロナ禍における法文学部学生の被災記録の収集、保存－将来の災害に備えてのデータベース化と今後の課題－」の一環として、学生の学修・生活への影響をお聞きするものです。これは、学術目的の調査であり、後世に役立てるための記録として保存します。

本調査の回答により収集された情報は、個人情報保護法にしたがって適切に管理されます。このアンケートは、原則匿名ですが、今後手記を提供してくださる場合は、お名前と連絡先をお聞かせいたします。アンケート内容や個人情報の取り扱いなどに疑義がある場合は青木理奈（*****@chime-u.ac.jp）にお問い合わせください。

本アンケート調査の回答にはおよそ5～10分かかります。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

代表 青木理奈・鈴木 静

* 必須

1. あなたは次のどれに当てはまりますか*

1つだけマークしてください。

- 一般学生
- 社会人
- 留学生
- その他：

2. 性別を教えてください*

1つだけマークしてください。

- 男性
- 女性
- その他

3. 学年を教えてください*

1つだけマークしてください。

- 学部1回生
- 学部2回生
- 学部3回生
- 学部4回生以上
- 大学院1回生
- 大学院2回生以上

4. コース等を教えてください*

1つだけマークしてください。

- 1回生のため、コース未定
- 昼間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
- 夜間主：法学・政策学コース（総合政策学科を含む）
- 昼間主：人文学コース（人文学科を含む）
- 夜間主：人文学コース（人文学科を含む）
- 昼間主：グローバル・スタディーズコース
- 夜間主：グローバル・スタディーズコース
- 大学院（法文学研究科総合政策専攻・人文社会科学研究科法学コース）
- 大学院（法文学研究科人文学専攻・人文社会科学研究科人文学コース）

5. 後学期が始まった今現在の居住形態を教えてください*

1つだけマークしてください。

- 1人暮らし
- 実家暮らし
- 学生寮
- その他：

【学修面】

この設問以降、前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の遠隔授業についてお聞きます。

1. Zoom 等の同期型授業は何科目ありましたか*

1つだけマークしてください。

- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

2. Moodle を利用した非同期型授業は、何科目ありましたか*

1つだけマークしてください。

- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

3. 修学支援システムやメールを利用した非同期型授業は、何科目ありましたか*

1つだけマークしてください。

- 1科目
- 2～5科目
- 6科目以上
- なし

4. 昨年までと比較して、前期の成績（単位取得数、評価）はいかがでしたか*

1つだけマークしてください。

- 昨年と比べて成績は良かった
- 昨年と比べて成績は変わらない
- 昨年と比べて成績は下がった
- 1回生なので昨年と比べられない
- 昨年と比べて履修した科目が少なくなくて比較できない
- その他：

5. 遠隔授業で、困ったことについて教えてください（複数回答可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 大学や担当教員からの授業に関わる連絡が遅かったこと
- 大学や担当教員からのメール連絡が頻繁であったこと
- 授業科目により授業方法（同期型または非同同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと
- 教材提供不十分で、授業内容を理解できなかったこと
- 教員による説明が少なく授業内容を理解できなかったこと
- 通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと
- 課題やレポートの書き方が分からなかったこと
- 課題やレポート提出の回数が多いこと
- 複数の科目の課題やレポート提出日が重なること
- 科目教員と連絡がつかなかったこと、つきにくかったこと
- 出席している課題が提出されているか確認ができなかったこと
- 困ったことはなかった
- その他：

6. 遠隔授業で、良かったことがあれば教えてください（複数回答可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 緊急事態宣言下でも受講できたこと
- 自分の好きな時間に受講できたこと
- 動画配信型の教材を繰り返し視聴できたこと
- 教員に質問できたこと
- 通学時間がなかったこと
- 1人で勉強する方が落ち着くこと
- 良かったことはなかった
- その他：

7. 遠隔授業を受けるのに障害になっていたことはどのようなことですか（複数回答可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）がなかった
- 自分のパソコン（スマホ、タブレット含む）の性能が低かった
- 自宅の通信環境が整っていなかった（通信速度が遅い等も含む）
- 自宅で自分1人になれる部屋（環境）がなかった
- Moodle などの操作方法がわからなかった

- 障害になることはなかった
- その他：

8. 遠隔授業を受けていた時の気持ちについて教えてください（複数回答可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 通常と変わらず、安定的に遠隔授業を受けることができた
- 困ったことを教員に相談できず、不安になった
- 困ったことを友達や先輩に相談できず、不安になった
- 昨年以上に長時間の学修を行ったため、疲労度が高まった
- その他：

9. 大学構内への立ち入りが禁止されていましたが、どのようなことに困りましたか（複数回答可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 図書館を利用できなかったこと
- 法文学部の文献室を利用できなかったこと
- 図書館や文献室以外の大学関連施設が利用できなかったこと
- 担当教員に会うことが出来なかったこと
- 禁止されていることは知らなかった
- 困らなかった
- その他：

10. 遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか

【生活面】

コロナ禍での緊急事態宣言のものでの生活面についてお聞きます

1. 前期（1Q/2Q）の遠隔授業期間において、どのような経済的な変化がありましたか（複数回答可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- アルバイトに入る回数や時間に変化はなかった
- アルバイトに入る回数や時間が減った
- アルバイトに入る回数や時間が増えた
- アルバイト先が休業したり雇止めにあった
- 新たにアルバイトを始めた
- 保護者からの仕送りに変化はなかった
- 保護者からの仕送り額が減った
- 保護者からの仕送りがなくなった
- 保護者からの仕送り額が増えた
- その他：

2. 就職活動にどのような影響がありましたか（複数回答可）*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 就職活動に変化はなかった
- 希望していた企業や自治体が募集を停止した
- 公務員試験や就職試験が延期になった

- 希望していた企業や自治体の応募を諦めた
 - Web 面接など、オンライン化された
 - 志望業界を見直した（変更した）
 - 就職活動をやめた
 - 4回生以上ではない、または就職活動はしていない
 - その他：
3. 遠隔授業期間において、メンタルヘルスにどのような変化がありましたか（複数回答可）*
当てはまるものをすべて選択してください。
- 通常と変わらず、安定的に過ごした
 - 物事に対してほとんど興味が無くなった、楽しめなかった
 - 気分が落ち込んだ
 - 寝つきが悪くなった、途中で目が覚めた、反対に眠り過ぎた
 - 疲れた感じがした、または気力がなかった
 - 食欲がなかった、あるいは食べ過ぎた
 - 新聞やテレビを見ることなどに集中することが難しかった
 - 生活のリズムが崩れた
 - 家族に会えず寂しかった
 - 友達に会えなかったり課外活動が行えず寂しかった
 - その他：
4. 遠隔授業が始まった当初、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。（遠隔授業開始は4月22日、緊急事態宣言は4月16日～5月6日）
5. その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。
6. 夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。

【協力して頂ける方のみ】謝礼：クオカード3,000円

本プロジェクトでは、学生の皆さんにコロナ禍での大学生生活の記録を手記としてまとめていただきたいと希望しています。手記の締め切りは11月末日で、1,200字程度です。手記をお寄せいただいた方には、謝礼（クオカード3,000円分）をお出しします。お引き受けくださる方は、青木と鈴木（下記の宛先）までメールにてご連絡ください。連絡頂いた学生さんには、青木から依頼のメールを致します。

宛先：青木理奈：*****@chime-u.ac.jp、鈴木 静：*****@chime-u.ac.jp

件名：「コロナ禍における法文学部学生の手記について」

本文：お名前をフルネームで書いてください。

こちらから連絡しても良いメールアドレスを正しく書いてください。

以上です。

質問は以上です。ご回答ありがとうございました。

資料2.「遠隔授業の際に、あったら良いと思う大学からのサポートはどのようなものでしたか」に対する全回答（自由記述）

| |
|--|
| 資金援助。 |
| 通信環境の整った教室の開放。 |
| 先輩や友達との出会いの場が欲しかった。 |
| 授業が全て終わってから授業のアンケートを取るのではなく、間で1度アンケートをとって欲しい。終わってから改善して欲しい点を伝えたらこちら側にはなんのフィードバックがない。今、資料だけで授業をしている先生がいてわかりづらく、動画型に変えて欲しいと思っている。だから、早めの措置をしていただきたい。 |
| 課題の量が適切かどうかのアンケートを定期的にとること。 |
| 多くのサポートがあり、そのままでありがたいと思います。 |
| 同一の曜日に遠隔授業と対面授業がまじらないようにしていただけたら嬉しいです。 |
| 大学からのサポートは特に必要だと思いませんでしたが、課題の提出方法を moodle を使って提出する形式に統一してくださると非常に助かります。 |
| レジュメを印刷させるなら、印刷環境の整備。インクやコピー用紙の提供もしくは代金の補助をしてほしい。特に、インク代はばかにならない。 |
| もっと、大学から学生に意見を聞くべきだと思う。これまでにない遠隔授業なのに、実際に受けている学生から意見を聞く機会が少ないのはどうなのか。 |
| パソコン室の開放など。 |
| 評価基準の明確化。 |
| 個人によって環境が異なるため、教材等の閲覧の期限は設けない方が良いと思った。 |
| zoom 等を使う際にはその使用方法についての詳細な説明、物品の貸し出し、授業に関係のある電子図書の提供、など。 |
| 画面を見続けることを防ぐような取り組み、そのような授業の仕方。 |
| 課題の締切が1日前になったら、再度通知する。 |
| 学習スペースを作してほしい。 |
| 英語の授業を受講しているが前期の英語Ⅱや英語Ⅲでは課題の内容など moodle に日本語訳があって良かったが、今期からなく、テキストの答えもアップされてないことから非常に困っている。テキストの解答は例文でも良いのでアップしてほしい。 |
| 課題の量を適宜調整する。 |
| 相談会など開いて頂けるのはありがたいのですが、参加者の数や学部コースなどはっきり分らないと参加しにくかった。 |
| レポート課題などの全体的な評価や教授や他生徒の例などもっと参考にしたい。 |
| 音声での説明があると、理解しやすかったです。 |
| ちゃんと先生たちにメール返信を徹底させるサポート。 |
| moodle のようなサイトにすべての講義の講義方法を統一してほしい。 |
| 課題などに対するコメントが、もう少しあったら良かった。 |
| 希望進路にあわせた履修登録の見本。 |
| レポートの評価をつける科目では簡単でいいのでどんなところが悪かったのか指摘が欲しい。 |
| 個人面談などの相談の機会。 |
| 授業の出席を課題ではない方法で確認する。 |
| 出席や課題提出をしたことが確実にわかる機能。 |

| |
|---|
| Moodle のカレンダーに課題の提出期限を載せる先生と載せない先生がいたので、その統一をしていただけるとより課題が提出しやすかったです。 |
| 現状のサポートで精一杯なのかなと思うから特になし。 |
| なるべく課題の提出方法を統一してほしい。また Moodle 上のダッシュボードで全ての課題の締切が見れるようにしてほしい。 |
| 土日もパソコンを使えるようにしてほしいかった。 |

資料3.「遠隔授業が始まった当初、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。（遠隔授業開始は4月22日、緊急事態宣言は4月16日～5月6日）」に対する全回答（自由記述）

| |
|--|
| アルバイト先が休業して、学校もなく、実家に戻った。 |
| 課題が多く、慣れるまでに時間がかかった。 |
| 大学で講義がないことに対してやる気が出なかった。 |
| どのように授業が進むのかわからず、不安だった。生活リズムを掴むのに苦労した。 |
| 自宅で落ち着く時間が増えた。 |
| 当初は実家に帰っていたため、大学に帰って来ることはできなかったが、生活に問題はなかった。 |
| 友達に会えず、一人で過ごす時間が増えた。 |
| 最初はどのように授業を進めていいか不安を感じた。 |
| 5月、6月頃に生活リズムが崩れて昼夜逆転した。 |
| 一人暮らしを始めたがすぐに実家に帰省した。 |
| 漠然とした不安があり、無気力に陥った。 |
| 通学時間が減り、多少負担が減った。 |
| 外出することが減った。 |
| 実家に帰省した。 |
| 先月まで高校生でろくにパソコンを使ってこなかったのに、誰にも相談できず不安なまま授業を受けた。 |
| 友達に会えず気分を晴らすことができないまま毎日課題をこなすことを繰り返していくと楽しみがなく気分が沈んだ。 |
| アルバイトの回数が減って収入が減った。また、対面でのカウンセリングが無くなったので、より大学が遠くなった。 |
| 学校に行けず、実家にも帰れない状態が続いて不安だった。 |
| 初めての授業形態でとまどった。 |
| 家族との会話が增え、家族と授業内容の話をすることも増えました。基本的にはインドア派で、かつ自宅生だということもあり、他の身近な学生に比べて不便なことは少なかったように思います。 |
| 早起きをしなくなったが、その他については以前から頻繁に外出するタイプではなかったため特に何も変わらず困ることも無かった。 |
| 昼夜逆転生活になった。 |
| 家でいる時間がかなり増えて、家族との時間が増えました。 |
| 学食を頻繁に利用していたため、ご飯に困った。ミールカードが使えず、食費がかかるようになった。（※ミールカードとは、愛媛大学生生活協同組合が提供している1年単位で購入する食堂の定期券である） |
| 何もかもが初めてのこと（遠隔授業など）ばかりで非常に困惑したし、何より退屈に感じた。 |

| |
|--|
| 明らかに受講の効率、モチベーションが向上した。 |
| 当時は就職活動も並行してオンライン上で行っていたので、スケジュール管理が難しかった。しかし、授業も就職活動もオンライン上でほぼ完結できたため、県外などへの移動の時間が減った分ほかの事に時間を使うこともできたので良かった。 |
| 課題の量が多く、夜遅くまで起きる日が多くなった。 |
| 授業に集中できない、聞いているのに頭に入らない。 |
| 外に出ることが全くない状態になり、授業に加えて何らかの重労働をすると眼精疲労が起きやすくなったかもしれない。 |
| 授業が始まっても、要領がわからないし、サークルもやってないし、友人もできなかったのでとても不安だった。 |
| 課題や提出物の量が異常に多く、睡眠時間が削られるなどの生活リズムの乱れが起きるようになった。 |
| 対面授業が減ったので、午前中に活動することが少なくなった。 |
| 学校に通うことがないので、授業が始まっても長期休みの生活リズムを戻せずだらだら過ごしてしまった。 |
| 生活リズムが整いにくかった。 |
| 対面授業がなくなったことに対する不安感や焦燥感の増加。 |
| 自由な時間が増え、心に余裕が生まれた。 |
| 一気にたくさんの課題などが出て、就職活動でもオンラインばかりで、自分は苦手だったので一気に心身共に状態が悪くなった。 |
| 遠隔授業がゼミ講義のみだったため、大きな変化はなかった。 |
| バイトのシフトがなくなり外出することがほとんどなくなり、引きこもりがちになった。 |
| 遠隔授業になれず、不安だった。 |
| 外に出る機会が減った。 |
| 疲労が無くなるので睡眠時間が遅くなり、それに乗じて起床時間が遅くなる。 |
| 現在進行形でずっと鬱。 |
| 初めて使うシステムや受講方法に慣れず不安だった。 |
| 少し気分が落ち込んだ。 |
| コロナウイルス感染予防対策のため、人に会わず、外食もせず部屋で一人でネットと課題に明け暮れた。県外や買い物自体も週に一度という極端な生活で非常に辛かった。 |
| 不安と戸惑いがあった。 |
| 外に出ることが少なくなり課題などちょっとしたことを友達に相談できず困った。 |
| 相談相手がいないため、学校のことに關してはすべて不安で、課題などにも慣れないため、精神的に疲労感があり、寝不足や息切れがあった。 |
| ひたすら家に1人で籠っているという状況がしんどかった。 |
| 課題が多いと感じた。 |
| 授業がなかった頃よりは、やるべきことがはっきりして気力がでた。しかし、情報の見落としや提出を忘れていないかなど不安もあった。 |
| 最初は色々街に出て散策したかったが、外出自粛で1週間に1回ほどしか外出しなかったため心身ともにストレスが少しかかっていた。 |
| 一日ほとんど声を発しない日もあり、ベッドで寝転がるか課題をする為にパソコンの前に座るかだけの生活が続いた。 |
| 長時間パソコンに向かうことによる眼精疲労、肩凝りが凄かった。会えると思っていた友達に会えず、当たり前前の日常の有り難さを実感した。アルバイト先が休業し、先が見通せない不安があった。 |

| |
|--|
| 春休みの感覚が抜けないうまま、授業を受け、生活リズムが崩れてしまった。 |
| 非同期型の遠隔授業によって、自分のペースで学習に取り組めた。 |
| 大学に行かなかった分、自炊のレベルが上がった。 |
| 自分の時間が増えたので新たなことを始めやすかった。 |
| アルバイト先で医療関係とダブルワークしていた人がこれなくなったため、シフトをおおく入れられてしまい疲れていた。 |
| 何もかも初めてで、慌てていた。 |
| 一人暮らしを始めたので、生活が一変したと思ったが、結局孤独感に耐えられず実家に戻ってしまった。 |
| 引きこもり生活で人間的にダメになった気がした。 |
| 一日のほとんどを家の中で過ごすようになった。 |
| 原因がある訳ではないのに突然落ち込んだり悲しくなったりした。 |
| 経済的に苦しくて困った。 |
| 一時的にアルバイト先が休業し、ずっと家にいたため、時間がたくさんあり、遠隔授業にも落ち着いて取り組めた。 |
| 家でゆっくりしていた。 |
| 全ての授業において大量の課題が出されるため、睡眠の時間が削られるなど、生活リズムが大幅に乱れた。 |
| 慣れないレポート作成やパソコン中心の生活で、身近に頼れる人や友達もできず心がづらい時があった。 |
| 当初は家から出なくてラッキーだと思っていたが自宅にいる時間が増え一人であることが続くとふと孤独を感じるようになった。新たな友人に出会うこともできず時間を浪費しているようだった。 |
| 初めて大学生活が遠隔授業で不安な気持ちで過ごしていた。 |
| 同期型が少なかったのでよく言えば余裕を持って、悪く言えばルーズに生活を送るようになった。 |
| 外出は全くせず、家でオンライン授業を受けることの繰り返しだった。1年生なので大学生活というものがないようなものなのかな全く分からないままだった。 |
| 日常に大きな変化はなかった。 |
| 大学生になった実感がなかった。 |
| 初めての授業や課題を相談する人がおらず、不安だった。 |
| ほとんど外出をしなくなり、家族以外の人と会わなかった。 |
| 一人暮らしの心細さがあった。 |
| 一人暮らしを始めた。 |
| 保護者からの仕送り額が減少して、節約生活を過ごしています。 |
| 電子機器に向き合う時間が通常より数時間増えた。 |
| 大学に行かなくていいので起床時間が遅くなった。 |

資料4.「その後、遠隔授業が1、2カ月続いた頃、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

| |
|--|
| 遠隔授業には慣れたが、課題が多すぎて疲れ始めた。 |
| 課題に追われずこし疲労がたまった。 |
| たるんだ。 |
| 時間を決めて授業に取り組むことができ、生活リズムを整えるコツを掴むことができた。 |

| |
|---|
| 生活リズムが崩れた。 |
| 通学しないため、課題の提出期限を勘違いしたり、忘れたり、自己管理の維持が難しかった。常に情報を確認しなければならず、疲れた。 |
| 友人とはリモートで飲み会をしたり、交流する工夫をした。 |
| 課題が毎日あり大変だった。 |
| 遠隔授業に慣れたので、生活リズムが元に戻った。 |
| zoomを使用して友達と話すようになった。 |
| ほとんど人と対面で会話せず、ずっと巣篭もりをしていた。社会から孤立している不安があり、睡眠や食事が満足に取れなくなった。 |
| 通学時間で使っていた時間を卒業論文作成に当てることができ有意義に過ごせた。 |
| 課題の提出で忙しくなった。 |
| 松山には用事がない限り行かなくなった。 |
| やらなければならない課題を少しでも溜めてしまうと常にそれが気がかりとなりストレスが溜まるが多かった。 |
| アルバイトを増やした。 |
| 実家に戻れて安心して生活ができるようになった。 |
| 常に課題に追われ、オンとオフが付きにくかった。 |
| 自分の時間の使い方の自由度が高まりました。心にも体力にも余裕ができ、むしろ人との対話が増え、繋がりも深まりました。 |
| 基本的に家にずっといるので、以前からやりたかったことに取り組むことができ充実した毎日が過ごせた。 |
| 期末レポートに追われる週はいつもしんどいのですが、遠隔授業では課題が多くて毎日が期末みたいでした。 |
| アルバイトに少しずつ行くようになりましたが、以前より家族と話したりする時間がやはり増えました。 |
| 彼女と半同棲するようになった。 |
| 皆に会えず気持ちが落ち込むだけでなく、課題への取り組みもあまり早くなかった。 |
| 通学、受講時間を自分で決められるようになったことで、学修効率が大幅に向上した。 |
| 就職活動がほぼ終わり、授業のリズムも掴めた頃だったので最初よりはゆとりを持って生活ができていたと思う。 |
| 人と話すことが少なくなった。 |
| 体調を崩した。 |
| 寝つきが悪くなったように感じる。外に出ていなかったためバテというか体力不足をよく感じるようになった。 |
| だんだん要領をつかめてきたが、レジメだけの授業や音声だけの授業は理解がうまくできず、また、家に居すぎてストレスが溜まった。 |
| 画面を見る機会が増えたことで目が疲れやすくなったり、腰が痛くなるようになった。課題の量が多いことによって生活リズムの乱れを直すことができなくなっていた。 |
| 相変わらずだらだらと過ごしてしまった。 |
| 視力の低下や眼精疲労の発生、対面でできないことに対するストレスの発生及び増加、やる気の低下、食に対する意識の低下（家から出ないぶん食欲不振になると同時に、動くのが億劫になり簡単なもので済ましてしまう）。 |
| 友達とあまり外出できないことに少しストレスを感じた。 |

| |
|--|
| どんどん免疫力が落ちていった。一人っきりの部屋で誰にも会わず過ごす日々で心身共におかしくなった。 |
| 寝る時間がはやり、生活リズムはよくなった。少しずつ外出も以前はするようになった。 |
| 慣れてきたが、対面よりも退屈さを感じた。 |
| 運動不足で生活リズムが崩れ、体重が増えた。 |
| アニメを観る時間が増えた。 |
| 食欲がなくなり、体重が減った。自傷行為をするようになった。死にたくなった。 |
| 思っていた大学生活との違いに落ち込んだり、情報を共有できる友人が居なくて困った。ずっと課題に迫られているような感覚があった。 |
| 安定した。 |
| 人に会わない生活のため、かなり精神的に辛かったが6月から少し感染予防対策がしっかりしている道後に泊まるなど、月に一度外出するようになりようやく少し精神が落ち着いた。 |
| 生活リズムが整い始めた。 |
| 遠隔授業にも慣れた。 |
| 体力がなくなり、今まで以上に机に向かう時間がとりにくくなった。 |
| 情緒が不安定になっていて、体調不良もあった。死にたいなどの衝動に駆られることも頻繁にあった。 |
| 日が経つにつれどんどん気持ちが落ちていった。その理由としては主に都内の〇〇業界を対象に就活をしていたため、全くと言っていいほど就活は進まなくなり、会って相談できる相手もおらず、死にたくなった。(※〇〇は、実際の業種が書かれていた為、伏字とする) |
| 課題が多いと感じた。 |
| 遠隔授業で学校に行く時間がなくなったことで、家族との時間が増えた。 |
| 生活リズムが掴めてきた。同じ大学内で友人が出来ないことに焦りを感じ始めた。 |
| 体力と集中力が落ちた。 |
| 遠隔授業の受講スタイルは確立していたが、本当にこれで大丈夫なのか不安な気持ちになったり、同級生と関わるきっかけが全くなかったのが辛かった。 |
| ストレスが溜まり現実逃避行為が激しくなった。 |
| 遠隔授業にも徐々に慣れてきたが、やはり対面授業とは違い理解しづらい部分が多くあり、しんどかった。いつでも受けることができる為、決まった時間に授業を溜めてしまうこともあった。 |
| 家から出ることもなかったため、運動不足になった。 |
| 夜型になった。 |
| パソコンの扱いに慣れた。 |
| サークルなどでできた友だちと好きな時間に遊べたのはよかった。 |
| だんだんとけだるくなり、やる気が失せていった。 |
| ずっと家にいることになるので、ボケ始めている祖母との時間が長くなり非常にストレスが溜まっていた。 |
| 少しずつ慣れてきたが不安も大きかった。 |
| 本来の予定とは異なり、愛媛ではなく実家で過ごしていた。 |
| 昼夜逆転が起こった。 |
| 昼夜逆転しそうになった。 |
| 4の回答と同じ状況に何度も陥った。(※4の回答とは、「原因がある訳ではないのに突然落ち込んだり悲しくなったりした。」である) |
| 教科書や課題に不安感が多かった。 |

| |
|---|
| アルバイトが再開し、少し課題が多いと感じるようになった。 |
| 生活リズムが崩れた。 |
| 生活リズムの乱れが直らなかった。 |
| 対面授業の時よりも課題が増え、やる気が出ない状態で常に課題に追われていた。 |
| 課題をこなすことには慣れてきたが、SNS などを通じて友達ができたと友達がいらない自分とのギャップが辛かった。 |
| 時折、無力感にさいなまれ課題や授業に対してやる気が出ないときがあった。 |
| 遠隔授業には慣れてきたが、課題が多くてしんどかった。 |
| やや生活リズムが崩れたが、途中で修正した。 |
| だいたいオンライン授業に慣れたが生活の変化は特に何もなかった。 |
| 遠隔授業の形式に慣れた。 |
| 友達ができなかった。 |
| オンラインでの交流が苦手だったため人との関わりがあまり無かった。 |
| 1人の時間が増えたため、自分のやりたかったことに挑戦することができた。 |
| 新たな友人を作れないという不安があった。 |
| 楽しくなくなった。 |
| ほぼ変化がないです。 |
| 睡眠が浅くなった。 |
| 時間が余るので運動を始めた。 |

資料5.「夏休み、あなたの生活において、どのような影響や変化がありましたか。自由にお書きください。」に対する全回答（自由記述）

| |
|--|
| どこにも行かなかった。インターンもほとんどオンラインだった。 |
| 時間はあるがなかなか遠出できなかった。 |
| 体調が悪く、精神が不安定になった。人に会うことが少なく、会話も少なく、心細くなった。過食と拒食を繰り返した。 |
| 夏休みが短くて不安になった。 |
| 遠くへ遊びに行けなかった。 |
| 友人と遊ぶ約束をしていたが、会わない方がいいと思い一度も遊ばなかった。 |
| 一人暮らしを再開しバイトと部活も始めた。 |
| 人と会う機会が少しずつ回復して、体や心の健康もやや回復した。 |
| 就職活動が通常より遅れて始まり、忙しかった。また、遊ぶことが自由にできず、満足のいく休みではなかった。 |
| 松山にほとんど行かなくなった。 |
| 行きたかった旅行に行けなかった。花火大会や夜市が中止などイベントがなくなり寂しかった。 |
| いつも友達と長期期間は旅行に行っていたがそれができなくなった。 |
| バイト以外ほとんど外に出ることはなかった。 |
| 例年実家に帰る期間に実家に帰らなかった。 |

| |
|--|
| 遠隔の集中講義を3つ取っていて、夏休み中、特に9月はずっと課題に追われていてしんどかった。 |
| ほとんど人と会わなかった、集中講義ばかり受けていた。 |
| ゼミ生での ZOOM 飲み会というものに参加し、ゼミ生との仲が良くなりました。 |
| 友達と出かけることがほとんど無かったためお金が貯まった。 |
| インターンシップで気晴らしが出来た。 |
| 資格の勉強を始めました。 |
| 友人などと会えず、気持ちが塞ぎこんでナーバスになった。将来への不安なども押し寄せてきて、精神的にしんどい時期があった。 |
| 夏休みはバイトや自動車免許の取得で非常に忙しくしていたため、気持ちが少しだけアクティブになった。 |
| 自宅から出る必要がなくなるとても心地よく過ごすことができた。 |
| 授業がない分、物事への目的意識が減りとてもつまらない日常を送っていた。友人と会う機会もほぼ無いに等しかったので本当に苦しかった。 |
| 新しくバイトを始めた。 |
| 人と会わなかった。 |
| 外に出る機会を増やそうと思ったため教習所に通うようにした。 |
| 実家に帰ってリフレッシュできた。 |
| 課題からは解放されたが、生活リズムを遠隔授業前のように戻すことはできなかった。 |
| 外に出れない分、バイトに打ち込みました。 |
| 部活動の合宿や友人との遠出の旅行ができなかったのも、家でだらだらと過ごすことが多かった。 |
| 帰省がしづらかった。 |
| 就職活動における試験の対策を行う環境が不足し、対策も減少したため「一人でやっている」という意識になり不安が生じる日が続いた。 |
| 旅行に行けず、これまでの夏休みよりもつまらなかった。 |
| 実家に帰って元気を取り戻した。 |
| 授業がなくなり時間ができたので、教習所に通いだした。 |
| 課外活動や外出が減り、お金に余裕ができた。 |
| 地元に戻ったので崩れていた生活リズムが整った。 |
| 対策をした上で長期帰省が出来たので、精神的疲労もなく過ごせた。 |
| 特に変化はなかった。 |
| ずっと鬱。 |
| 友達を作れなかったため長期間実家に帰省した。 |
| GOTO トラベルと県民限定宿泊で、県外を一步も出ることなく道後に3度宿泊した。8割愛媛県民の宿泊者のため安心し、宿泊できたことや感染予防対策が取られていたので、市内の居酒屋で外食するより安心して宿泊できた。宿泊の際も随時2人と最小人数を心かけたことで、リラックスすることができた。夏休み中も新型コロナウイルス感染が怖いので、予防対策が万全な道後のホテル以外外出していない。また、ホテルでも消毒シートで入室時、すべての箇所を拭くなど感染対策も配慮した。長期の休みで県外や海外に旅行に行かないのは初めてのため、かなり精神的にはモチベーションが上がらないが、道後宿泊で少し精神安定を図っている。この期間に資格の取得に努め、FP 技能士3級に合格したのでこの状況でなかったら資格の勉強も進まなかったと思われることから良かったと思っている。 |
| 実家への帰省をすることをためらった。 |
| アルバイトが始まった。 |

| |
|---|
| バイトとオンラインインターンしかしていない生活だった。 |
| 外に出ることがほとんどなかった。 |
| ひとまず学校のことから離れられるものの、生活面においてアルバイトなどができず、困窮していた。(仕送りをもらえないため) |
| 環境的にも精神的にもやっとアルバイトができる状態になり、少し生活がマシになった。 |
| 自分のしたいことができて充実していた。 |
| 夏休みは集中講義を受けていたが課題の間隔が狭いうえにウェイトが重く、過酷だった。 |
| 長期的に実家に帰れたことで精神的に安定した。愛媛に戻って来てからはバイトしかやることがなく、暇で少し気分が落ち込んだ。 |
| 大学の友人がほとんどできないままだった。 |
| アルバイトもサークルの活動も無かったので実家に1カ月以上帰省していた。 |
| 親が家を買って引っ越すことになり、バイトをやめた。 |
| ほぼ実家にいたが、あまり友達と遊べなかった。毎年恒例だった旅行にも行けず、気が付いたら夏休みが終わっていた。 |
| 就職活動がオンライン化し、本来なら対面であったインターンが開催できなくなったり、zoom になったりした。思ったように行動できず菌痒い思いをした。 |
| バイトを始めて、生活リズムが戻ってきた。 |
| 夏休みは外出を控えただけで、普段の夏休みと変わらなかった。 |
| 県外に遊びに行くのには少し抵抗があったが、泊まる日数を減らして遊びに行った。 |
| ジムに通い始めたことでメンタル的にもフィジカル的にも充実してきた。 |
| 毎年行っていた旅行に行かなかったくらいで、特に困ったことはなかった。 |
| 実家に帰れて落ち着いた。 |
| 結局愛媛ではなく、実家でほとんどの時間を過ごしていた。 |
| 部活ができるようになって少し社会復帰できた。 |
| 予定よりも長期間実家に帰れた。 |
| 実家に帰っていたため、特に不自由はなかった。 |
| 去年は毎日に行っていたサークル活動が無くなり、代わりにアルバイトの時間が増えた。 |
| 生活リズムが崩れた。 |
| 生活リズムを以前のように戻すことはできなかった。 |
| サークルが少しずつ始まったおかげで気軽に話せる友達や先輩ができ、心に余裕が持てた。また、アルバイトを始めたこともあって大学生らしい生活ができているような気がした。 |
| 新たにアルバイトを始めて少し外に出るようになった。基本的には自宅にいた。 |
| 家族と過ごすことができてうれしかった。 |
| 外出をほとんどしないまま夏休みが終わった。 |
| 通常通り自宅で過ごした。 |
| 遊びに出かけることはなかった。 |
| バイトを始めたが、失敗することも多く、死にたいと思うことが増えた。 |
| コロナウイルスの影響で外に出にくく家にいる時間が例年より多かった。 |
| 帰国できないので、寂しかったです。 |
| 健康になった。 |